

黙示録 17 章 1 節-5 節 スタディーガイド

黙示録には、4つの幻が記されています。

第1の幻はイエス・キリストの栄光と教会。第2の幻が、封印、ラッパ、そして鉢の災難でした。黙示録 16 章までで、大患難時代のすべての災難が終わりました。

17 章から 20 章までが3つ目の幻です。17 章と 18 章では、大患難時代の前半と後半の、世界情勢の裏話のような大バビロンについて語られています。

★ 黙示録 17 章 1 節-2 節

また、七つの鉢を持つ七人の御使いのひとりが来て、私に話して、こう言った。「ここに来なさい。大水の上にすわっている大淫婦へのさばきを見せましょう。地の王たちは、この女と不品行を行い、地に住む人々も、この女の不品行のぶどう酒に酔ったのです。」

1 節「ここに来なさい。大水の上にすわっている大淫婦へのさばきを見せましょう。」

大水の上に座っているとは、17 章 15 節で「あなたが見た水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語です」とあるように、世界中の人々、異邦人のことを指しています

大淫婦と呼んでいるのは、偶像礼拝を姦淫と呼び、売春と同じことを表すゆえです。

2 節「地の王たちは、この女と不品行を行い、地に住む人々も、この女の不品行のぶどう酒に酔ったのです。」

このぶどう酒については、17 章 6 節「女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。」

聖徒たちを殺すことで喜びの快感を得ているかのようです。地の王たちも偶像礼拝をし、聖徒たちを殉教させることに楽しみ、酔っています。この大淫婦について、旧約聖書で預言されています。

★ ゼカリヤ書 5 章 5 節-8 節

私と話していた御使いが出て来て、私に言った。「目を上げて、この出て行く物が何かを見よ。」私が、「それは何ですか」と尋ねると、彼は言った。「これは、出て行くエパ枘だ。」そして言った。「これは、全地にある彼らの罪だ。」見よ。鉛のふたが持ち上げ

られ、エパ枘の中にひとりの女がすわっていた。彼は、「これは罪悪だ」と言って、その女をエパ枘の中に閉じ込め、その口の上に鉛の重しをかぶせた。

6節でゼカリヤが出ていく物を見て、御使いに「それは何ですか」と尋ねています。
6節「これは、出て行くエパ枘だ。」「これは、全地にある彼らの罪だ。」

エパ枘についてはここに書かれています。

レビ記 19 章 36 節「正しいてんびん、正しい重り石、正しいエパ、正しいヒンを使わなければならない。わたしは……あなたがたの神、主である。」
エパ枘は経済を表しています。

ゼカリヤ書 5 章 7 節「見よ。鉛のふたが持ち上げられ、エパ枘の中にひとりの女がすわっていた。」
これは、正しいエパ枘ではなく、鉛のふたが付いているため偽りのはかりを使っています。

その中に座っている女が経済に関係していることを知らせています。偶像礼拝に関わる淫婦が、経済に関わっていることを表しています。

8 節『「これは罪悪だ」と言って、その女をエパ枘の中に閉じ込め、その口の上に鉛の重しをかぶせた。』
邪悪なビジネスと偶像礼拝が、最も激しくなるのが終末の大バビロンです。

★ ゼカリヤ書 5 章 9 節—11 節

それから、私が目を上げて見ると、なんと、ふたりの女が出て来た。……彼女たちは、あのエパ枘を地と天との間に持ち上げた。そこで私は、私と話していた御使いに尋ねた。「あの者たちは、エパ枘をどこへ持って行くのですか。」彼は私に言った。「シヌアルの地で、あの女のために神殿を建てる。それが整うと、その台の上に安置するためだ。」

10 節「あの者たちは、エパ枘をどこへ持って行くのですか。」
二人の女がエパ枘を持ち上げたのを見て、ゼカリヤがこう質問しています。

11 節「シヌアルの地で、あの女のために神殿を建てる。それが整うと、その台の上に安置するためだ。」
シヌアルの地は、バビロンのある所です。神殿を建てるとは、この女が経済だけではなく、宗教に関わっている大バビロンの淫婦のことであるという預言です。

11 節「(神殿が) 整うと、その台の上に安置するためだ。」
未来のことを表しています。未来に現れる大バビロンは、大患難時代の前半は、経済と宗教の本拠地となります。そして、大患難時代の後半には経済の本拠地となり、宗教の本拠地はエルサレムに移ります。

★ 第二テサロニケ人への手紙 2章 3節-4節

だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

3節「不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」
反キリストが現れなければ、ご再臨がないことを伝えています。

4節「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。」
大患難時代の後半に起こることで、宗教の自由が世界から奪われます。

4節「神の宮の中に座を設け」
第三神殿の中に座り込み、「自分こそ神である」と言って、人々が彼を拝むように強制します。

この時からエルサレムが宗教の本拠地となります。

★ 黙示録 17章 3節-5節

それから、御使いは、御霊に感じた私を荒野に連れて行った。すると私は、ひとりの女が緋色の獣に乗っているのを見た。その獣は神をけがす名で満ちており、七つの頭と十本の角を持っていた。この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手に持っていた。その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン」という名であった。

3節「ひとりの女が緋色の獣に乗っているのを見た。」
緋色の獣は、反キリストです。大患難時代の前半で異端宗教を利用して偽の世界平和をもたらし、大きな信頼を世界中から得る反キリストの裏話です

3節「その獣は神をけがす名で満ちており、七つの頭と十本の角を持っていた。」
反キリストは、10本の角である10人の王たちと共に働きます。偶像を崇め、真の神様を汚して人々の心を引き付けます。

4節「この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り」
紫の衣は、人々から尊ばれていることを表しています。宝石で身を飾っていますから、大変な繁栄で、経済を潤わしていることでしょう。

4節「憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手に持っていた。」
彼女の杯の中身は、偶像での姦淫、あらゆる不品行や人殺しで満たされています。

5 節「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン」

ここで彼女の名前が出てきます。

神様への反逆の象徴のようなバベルの塔は、世界が一つの言葉を使っていた時代にニムロデという人が先導して、再び神罰である洪水が起こってもびくともしない塔を建てようとしたのです。

すなわちバビロンが「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母」なのです。

異端宗教とあらゆる罪の母ですから、これらを生み出した所を表しているのが「バビロン」です。

終わりの日のバビロンは統一された世界ですから、大バビロンという名になります。しかしバビロンはバビロンです。バビロンはシュメール語で、ヘブライ語では「バベル」です。

◆MEMO◆